

☒ 話すこと ☒ 書くこと☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実
☐ パフォーマンステストでの活用☒ 授業での活用
☐ 課外活動での活用☒ 家庭学習での活用実践の
ポイント

教師とAIの効果的な役割分担による言語活動の充実とフィードバックの改善

実証概要

<校数>8校(中学校:3校、義務教育学校:1校、高等学校:4校) <人数>1,482名(中学校:708名、高等学校774名)

<学年>中学校:第1～3学年、義務教育学校:第7～9学年、高等学校:第1学年

<アプリ等>WorldClassroom(株式会社 HelloWorld)

<AI機能について>

①生成AIと英語で会話し、達成度を判定する会話練習機能 ②生徒の発音に対してリアルタイムで修正点をフィードバックする音読練習機能 ③テーマに沿って生徒がオリジナルの文章を登録し、プレゼン動画撮影まで行うことができるプレゼン練習機能 ④プレゼンテーションの発表原稿について、文法事項の修正を提案する文法チェック機能

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

●AI活用が効果的と考えられる場面を特定し、AIのコア活用としてルーティン化(中学校・義務教育学校)

AI活用が効果的と考えられる場面を、帯活動等でのやり取り、教科書の音読練習、家庭学習と特定し、全てのモデル校でルーティン化することにより、生徒の英語による言語活動時間が増加。やり取りの指導においては、AI活用以前は教師が机間指導しながら個別にフィードバックすることが多かったが、生徒の学習ログ(会話のスクリプト)を網羅的に確認し、多くの生徒に共通する誤り等をフィードバックする指導に変化した。音読練習では、教師が繰り返し等により一斉指導する従前の指導ではなく、AI活用により個別最適化された音読練習が可能となり、教師はこれまで以上に、支援の必要な生徒に注力できるようになった。生徒はAIとのやり取りや音読練習を家庭学習でも自律的に取り組み、授業での友達やALTとのやり取りにおいて、自分の考えを詳しく伝えたり、相手に質問する等、会話を継続・発展させる姿が見られるようになった。

●生成AIと言語活動におけるAIアプリの活用(高等学校)

「話すこと[やり取り]」については、単元の最初に内容に関連したトピックを取り上げたり、単元の最後に関連した文法項目を活用したりする等、単元の最初や最後でAIキャラクターと会話し、その後、生徒同士の会話に繋げる活動を行った。また、「書くこと」については、生徒自身が作成した発表原稿に対するAIアプリからのフィードバックを反映させることにより、発表原稿の完成度を高めることに繋がった。AIアプリが文法項目についてフィードバックすることにより、教師が内容面のフィードバックに時間をかけることができるようになった。

実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①児童生徒の英語力の変化

中学校・義務教育学校において、CEFR A1相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加した。(66.3%→75.8%)

高等学校において、「話すこと」において、AIアプリの活用により、発話量が増加(「AIを用いたことにより、授業中における児童生徒の英語による発話量・発話時間はどう変化しましたか。」に対する肯定的評価が100%)

②児童生徒の関心・意欲の変化

中学校・義務教育学校において、普段の授業に比べ、AIを利用した方が「英語を話すことは緊張する」と答えた生徒が少ない。

(普段の授業:65.4% AIの活用:40.2%)
高等学校において、普段の授業に比べ、AIを利用した方が「英語を話すことは緊張する」と答えた生徒が少ない。
(普段の授業:71.6%、AIの活用:33.4%)

③教師の指導の変化

中学校・義務教育学校において、「AI活用により、個別学習中に気になる児童生徒により注力して支援を行うことができるようになった」と肯定的に回答したリーダーは83.3%となっており、AI活用による指導の改善が図られている。

高等学校において、AIアプリが文法のフィードバックをすることで、教師が内容のフィードバックに時間を確保できるようになった。

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

AI英語活用リーダーが、実践交流や有識者による助言等からAIを活用した活用した「話すこと」及び「書くこと」の具体的な指導のイメージを持つとともに、実際にAIを活用した授業等の実践を発信したり、実践を基にAI活用のメリットを共有したりし、他の英語担当教師のAI活用を促すことができるようにすることを目標に以下の取組を実施した。

●AI英語活用リーダーを対象とした研修等の実施

- ・モデル校を集めた研究協議会の実施(年2回、有識者による講話を含む)
- ・学校訪問によるAI英語活用リーダーへの支援
- ・モデル校における好事例や悩みなどの共有を目的としたオンライン実践交流会を実施

●AI英語活用リーダーによる成果の普及

- ・広島県高等学校教育研究・実践合同発表会における発表
- ・教科主任等連絡協議会における実践事例の発表
- ・外国語指導助手等指導力向上研修における実践事例の発表
- ・第2回研究協議会における研究授業の実施

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

AIの活用により、授業中の生徒の英語による言語活動時間が増加し、英語を用いて即興で伝え合ったり、まとまった内容を発表したりするなど「話すこと」を中心とした言語活動の指導の充実を図ることができた。

一方で、発話量が増加したことに伴って表現の正確さに課題が見られた。今後は、教師によるフィードバックについて研究するとともに、AI活用が効果的な場面と教師による指導が必要な場面を整理し、ベストミックスとなる活用方法等の研究を進める。